

## 平成 28 年度 第 2 回 伊勢市地域自立支援協議会 議事録

開催日時	平成 28 年 12 月 1 日 (木) 午後 19 時 00 分～午後 21 時 00 分
開催場所	御薊公民館 講堂
出席委員	宮崎 吉博会長、市川 知律副会長、小林 えり子委員、杉田 宏委員、齋藤 茂委員、中谷 大介委員、山路 克文委員、中森 忠司委員、中川 悦子委員、眞崎 俊明委員、加藤 淳委員、松崎 まみ委員、田中 郁子委員、新村 幸治委員、田中 秀治委員、泰道 詞子委員
事務局	健康福祉部次長 高齢・障がい福祉課長、係長、他 2 名 こども課 (こども家庭相談センター) 1 名 学校教育課 1 名 伊勢市障害者総合相談支援センター フクシア職員 2 名
その他	伊勢志摩圏域アドバイザー 1 名
傍聴者	3 名

### 1 あいさつ

○宮崎会長あいさつ

第 1 回自立支援協議会から半年が経過した。その間に相模原で重度の障がい者が殺傷されるという大変ショッキングな事件が起きた。この事件を契機に様々な立場からいろいろな意見が出され、この国の福祉の現状を物語るかのような様相を呈していると思われる。この容疑者の考えが福祉の仕事に携わる中で膨らんでいったとしたならば、大変恐ろしいことだと思う。

また、福祉の現場で人材不足が続いている。福祉施設がどんどん増加をしているが、それに見合うだけの人材がいるのかが心配。私自身も、人材不足を現場で感じる。人の育成を真剣に考える必要がある。教育や啓発の重要性を改めて認識する。

この自立支援協議会がその一助になればと思う。

### 2 障害福祉計画・障害者計画について

○事務局より、資料に沿って説明。公表するにあたり、自立支援協議会としての意見をお願いしたい。

#### 【各委員主な意見 (障害福祉計画)】

- ・PDCA の管理は、増えてよかった・減って悪かったということ言うのではなく、なぜ増えたのか・減ったのかを調べ、次の計画に反映させる必要がある。増えてしまったのなら、なぜ増えたのか、地域移行できなかったのか等の数字の分析が必要である。そのような意見の書き方が必要と思う。数字の意味を意見として付け加えるべき。
- ・入所施設等職員の意識改革が必要とあるが、意識改革というのが、現在どういう意識であって、どう変わっていくという部分が欲しいと思う。実際どうなのか。

⇒地域移行に関しては、行政だけで推進しても、現場職員の意識改革が無いと難しい。現場職員が地域移行できる可能性がある人でも、このまま施設でいいと思っていれば地域移行はできない。この人は地域で生活できるのではないか・こういう支援があれば地域で生活できるのでは等の視点を持ってもらい、支援をしていただくことが必要である。そういう意識を持っていただける職員を増やしていきたいと考えている。

- ・現状の施設職員等の意識を知りたい。把握はどうしているのか。  
⇒職員がどのような意識を持っているかの調査はしていないが、県が数年前に調査した結果や他の圏域で調査した結果は聞いている。今後どう進めていくかは検討していく。
- ・本来、入所施設が駄目で地域生活がいいというものではない。権利条約に基づいた個別支援計画や利用計画が立てられているかと言うと、まだ残念ながらそこまでの視点に至っていない。三重県の自立支援協議会下部組織部会の中で、地域移行の可能性を全入所施設者に対してアセスメントをしようと昨年度から取り組んで知る。施設職員に地域移行の視点が芽生えるように、取組みを始めたところである。
- ・これはホームページに出すのか。冒頭に会長があいさつで言われた相模原の事件のことについて、伊勢市自立支援協議会からメッセージを出したほうがいいのか。  
⇒中身はどうするか。  
⇒視点の立て方によって、いろいろな論点がある。全てになると大きいと思うので、一般的な書き方になるが、各委員がこういう意見を入れて欲しいとあれば、今月中に事務局に意見してもらい、事務局でまとめ、会長・副会長に最終確認を行う。
- ・公開はいつ頃か。  
⇒年度内には公開したいと考えている。
- ・入所施設9人増加だが、地域移行した人と同じ人が重なってカウントされていないのか。  
⇒重複はしていない。
- ・地域生活支援拠点だが、あと1年しかない。面的整備と限定してどのように進めるのか。どのような社会資源をどのようにつないでいくのをイメージしているのか。  
⇒まだ伊勢市としてどのようにやっていくのかがしっかり捉えられていない状態。運営会議で協議をしていく予定。協議の動き次第で、どのようにしていくかも変わってくる。  
⇒面的整備と言われても、一般市民には分からない。何か例の記載があればいいが。
- ・介護保険の事業所で短期入所の充実を図るとなっているが、その後どうなっているのか。昨年度1件となっているが、その内容は。  
⇒1件登録のあった事業所は市外の事業所である。対象者ありきであった。今後は、この協議会にも参加していただいている前田委員の介護保険連絡会にて働きかけをして、高齢者の事業所に障がい者の事業への対応をお願いしたいと考えている。
- ・障害福祉計画の自立支援協議会の意見は、今回の各委員の意見をまとめ、公開前に提示をしていただきたい。

#### 【各委員主な意見（障害者計画）】

- ・ボランティア活動の推進について、記載以外にもいろいろな機関で支援がある。そのへんの視点の広がりを見てもらえるとありがたい。
- ・最後の自立支援協議会の意見が「市役所各部署にて連携」となっているが、地域も含めた他

機関も入れてもらったほうがいい。

- ・市民も巻き込んだ形に肉付けをして欲しい。
  - ・パーソナルカルテの活用だが、障害者計画を作った時に途切れない支援が核だった。平成28年度の課題に「方策を探っていく」となっているが、もう少し具体性が欲しい。  
⇒現在、パーソナルカルテの周知に向けては、各学校に特別支援コーディネータを置いており、その人らに周知し研修会をしている。ただ、学校の対応に対して保護者が不安を持っているため、その点に関しては、今後方策を探っていくとしている。
  - ・パーソナルカルテの周知・普及をお願いしたい。パーソナルカルテを持って医療機関に行ったら「何ですか？これ」と言われたと聞いている。大きな病院等への普及も合わせてお願いしたい。
  - ・全体的に役所用語が多い。具体例を入れて周知を探っていくとかの記載のほうが分かり易いと思う。
  - ・市民も分かりやすい表記を協議会から求めたという表記をしてもらうのもいいかも。
- ※公開までに日もあるので、気になる部分有れば事務局に連絡をする。今出た意見等を事務局にてまとめる。

### 3 短期目標に向けての提案について

○事務局より、資料に沿って説明。

前回の自立支援協議会において、協議会の短期目標を設定していただいた。その1つである「知ってもらおう自立支援協議会」について、運営会議にて検討。

まず、自立支援協議会自体を、関係者や当事者・市民の方が知らない現状がある。自立支援協議会がどんなことをしているのか、という事を知らないことはもちろん、これ以前に、困っても誰に言えばいいのか？どのように伝わるのか？という不安や、諦めてしまっている方もおり、まずは、自立支援協議会を知ってもらい、少しでも希望を持ってもらいたい、興味をもってもらえることができると考えた。

そのためには、まずは簡単にでも広く名前を知ってもらい、周知を重ね、その後、市民の方も参加できる定例会等を開催できるように進めていくべきであり、その周知方法の検討を行った。

周知方法としましては、まずはチラシを作成し、市の施設や関係機関への配布・イベントなどで配布するなどし、周知をしていくべきと考えた。現在、自立支援協議会って何？と聞かれた場合に、それを伝える物が、何も無い状態。簡単なチラシを作成し、それを見てもらい、少しでも多くの人に、自立支援協議会を知ってもらいたい、興味を持ってもらいたい、という運営会議委員の思いを込め、チラシを作成していただいた。

表紙に「サブタイトル」を入れたい。その候補の案が「7つ」あり、チラシの検討とともに、サブタイトルを1つ決定して欲しい。

#### 【各委員主な意見】

- ・声を聞かせてもらおうとあるが、どこに言えばいいのか連絡先がない。連絡先がいるのでは。  
⇒再度検討・工夫をする。
- ・ホームページを参照とあるが、パソコンを使えない人が多い。時代の流れは分かるが、電話

番号や FAX など他の記載方法も検討して欲しい。

- ・逆に若い人には QR コードをつけてもらえばどうか。
  - ・協議会の組織図は必要なのか。ここまで必要ないのでは。  
⇒レイアウトを再度検討する。
  - ・みんなが安心して暮らせるというのが、今、最低限求められるものと感じる。相模原の事件もあり、当事者も恐ろしさを感じている。安心・安全が第一。
  - ・市長・会長等の一言があるが、当事者の声を入れてもいいのでは。「こんな事でも言っているんだ」と分かり易いのでは。
  - ・サブタイトルについて、いろいろ案はあるが、障がいを持っている人と無い人で分け隔てを感じてしまう。全て伊勢市民の困りごとと捉えるなら、みんなが共感できる言葉がいいのでは。
  - ・作り変えることがあるという前提なら、「暮らしやすいまち」がいいのでは。
  - ・「みんなにとって」より「誰もが」という表現のほうがいいのでは。「自立と共生のまちいせ」がやはりいいのでは。
  - ・いろいろな部署で同じような文言を使っているのでは、ダブってもいいのか。事務局で検討して欲しい。
- ※各委員の意見を参考にサブタイトル・レイアウトを考えてもらう。出来るだけ更新していきるように。運営会議でまとめ、会長・副会長承諾で決定とする。

#### 4 プロジェクトチーム報告について

○事務局より、資料に沿って説明。

職場体験制度創設チームにて何度も検討を重ねた結果、最終報告・提案となる。

##### 【各委員主な意見】

- ・この事業は、A型・B型の事業の利用者が一般就労へつながるための制度なのか。障がいをもっていないが就労につながらない人（障がい者ではないが狭間の人）もいるので、その人らも想定しているのか。範囲はどう考えているのか。  
⇒対象者は障害福祉サービスを利用している人である。今後制度が広まっていき、最終的にはサービスを利用していない人へも広がればとは検討してきた。
  - ・回数だが、一人の人が同じところを利用するのが2回なのか、どこでも2回なのか。  
⇒いろんな企業での体験の回数制限はないが、同一企業なら2回としている。それ以上なら雇用へ向けてとなるため、ハローワークへ登録し、そちらの制度で対応となると考えている。
  - ・雇用前提無しを前面にもってくるのがどうか。検討を。
  - ・事務局が非常に大切になってくる。一人一人の特性やニーズを把握するのが必要。特別支援学校と連携していくことも必要である。制度自体は大変ありがたい。
- ※協議会としての行政への提案としたい。是非ともいい制度にして欲しい。

#### 5 プロジェクトチーム立ち上げについて

○事務局より、資料に沿って報告。

前回の自立支援協議会以降、毎月運営会議を開催し、今までにいただいた地域課題の整理・検討を行ってきた。その中で、誰の困りごとなのか・本当のニーズは何か・どうしたら地域で安心して暮らし続けられるのか、などの視点で、議論してきた。

まだ議論の途中経過となるが、直B問題等、いくつかのチームの検討を、今後進めていく予定となっている。

地域生活支援拠点については、テーマ自体が大きいため、まずは運営会議にて、今後勉強を行い、議論を重ね、その中で、内容やメンバー等を検討していく予定となっている。

今後の進捗状況については、次回以降の自立支援協議会にて、報告する。

#### 【各委員主な意見】

※今後の動きも報告を。

### 6 障害者虐待報告について

○事務局より、事業報告・事業計画・通報状況等について報告。

#### 【各委員主な意見】

・継続の案件は、何年も続いているのか。

⇒長い人で2年近く続いている。その中で虐待リスクや支援方法を何度も検討している。

・継続とはどういう状況なのか。虐待と認定したら、動いて終わらせるのでは。継続とは何もしていないのか。

⇒安全確保などの初動機の対応は終わっている。その後の養護者支援等に時間がかかっている。安全確保は終わっている。

・施設従事者虐待の場合の対応は行政としてどうしているのか。

⇒本人・施設等への調査を行う。指定権者は三重県になるため、報告し、三重県へ改善等指導をしてもらう。

※虐待は数の問題ではない。増えた減ったではないので、丁寧な対応をお願いしたい。

### 7 (1) 障がい者サポーター制度について

○事務局より、資料に沿って報告。

#### 【各委員主な意見】

・障がいのある作家という表現はいいのか。作品については、障がいがあるないは関係ないという見方もある。

・あえてそのような記載のほうが分かるのでは。いろんな考えの人がいると思う。

### 7 (2) 福祉施設管理の今後について

○事務局より、資料に沿って報告。

前回の自立支援協議会でも、紹介したが、伊勢市では、これまで、障がいについて知る機会や、障がいのある人と接する機会がなかった方にも、障がいの特性や、必要な配慮を理解してもらえるよう「障がい者サポーター制度」を今年度、創設する。

各委員には、すでに文書で依頼しているが、12月17日に制度発足を記念して、発足式・

記念シンポジウム・第1回サポーター研修会を開催する。

また、同時開催としまして、「ハンディプラス・アート 2016in 伊勢」を12月17日から25日まで開催、またNPO法人希望の園村林理事長と伊勢市長の対談を、12/18に予定している。

この制度への理解と、制度の普及啓発に協力いただきたい。

### 7 (3) その他について

○事務局より、資料に沿って報告。

伊勢市で現在協議会・組織のあり方を見直している。いろいろな会議・委員会があるが、本来は付属機関として扱う必要があるのではと考えている。障がい部門では、施策推進協議会が現在伊勢市にはないため、平成29年度からは条例化して作っていきたいと考えている。その中で自立地支援協議会が扱っていることや手話のことを検討していければと考え、現在検討中である。